

令和7年度 高松市地域学校協働活動【活動報告】

モデル校	下笠居小学校
地域学校協働活動推進員 (コーディネーター)	1名 (主な役職) 保護司



1. 地域と学校が共に目指している事

- ・地域や学校の実情に応じた課題解決や、普段できない体験の企画立案により、地域が学びの場となり、大人と子どもが共に成長すること

2. 活動の内容（7年前から小・中学校合同で実施）

【第1回】

授業参観（小学校）を実施

- ・事前に提示し承認を得ていた下笠居小学校・下笠居中学校の学校経営（案）について説明・協議

【第2回】

授業参観（中学校）を実施

- ・学校運営についての中間報告を行い、成果と課題を説明し共通理解を図るとともに改善点などを協議
- ・地域自治会、地域団体（健全育成会）、保護者（PTCA）より支援の提案

【第3回】

- ・学校運営についての報告（自己評価等をもとにした）を行い、成果と課題を説明
- ・共通理解を図るとともに改善点などを協議
- ・地域自治会、地域団体（健全育成会）、保護者（PTCA）より支援の提案

3. 今年度の成果

- ・ 学校運営協議会委員が、学校の情報を伝える役割を果たしてくださっており、地域・保護者からの大きな支援となり、学校運営を助けていただいている。
- ・ 小学校・中学校ともに、具体的な支援内容を協議会に諮ることができたため、効率的に、また多くの支援を行ってもらうことができた。
- ・ 学校と委員がざっくばらんにもの言える雰囲気づくりを行ったことで、形式的な協議会ではなく、一歩踏み込んだ協議ができた（具体的な行動につながっている）。
- ・ 支援をいただくだけでなく、中学校（生徒）から「地域に貢献できること」を具体的に示してもらうことができ、地域による学校支援、学校による地域貢献の双方向のつながりができつつある。それにより、ともに学校を創っていく、ともに地域を創っていくという基盤づくりが、昨年度より確実にできていることを実感した。
- ・ 学校（運営）を媒体にした地域性を生かした大きな枠組み作りができていると感じる。特に、PTCAの本格的な活動により、学校に対する支援の輪が地域全体へと広がっている。

4. 次年度に向けての課題

- ・ 実効性のある『下笠居型』コミュニティスクールの実現に向け、さらなる体制づくりを学校・保護者・地域が一体となって進めていくために、学校がそのハブの役割を果たし、学校運営協議会がその中心となるよう努力していく。
- ・ 昨年度の課題から、学校と地域の方が意見交換をしやすくするために、その役割を管理職が自覚し、地域行事への積極的な参加、協力を行っている。その結果、コミュニティスクールとしてのつながりが持てるよう情報共有・共通理解が少しずつではあるができるようになった。これを管理職だけでなく、学校全体として行えるよう、働き方改革も考慮しながら行っていく必要がある（継続性を持たせる）。

地域学校協働活動

コーディネーター

1. コーディネーターの主な活動内容

No	項目	内容
①	地域の花壇や学校施設の奉仕活動 	・担い手不足だった地域の花壇や、学校施設で普段行えない場所の清掃作業を地域団体と連携して定期的実施。 ・生徒会や PTCA のアイディアを形にし、生徒たちへのメッセージを伝える場にもなっている。  
②	地域とのコラボレーションで特別な企画（授業）や運動会準備等の課題解決 	・従来の PTCA や学校だけではできなかった伝統行事（鯉のぼり・七夕・クリスマス）やキャリア教育（焼き芋販売、イチゴシロップづくり等）、地域通貨（シモカ）の活用などを実施  

2. 苦労したことや、今後解決しようと考えている事

- ・土日の行事や校外イベントのため、ボランティアの方々や生徒達、保護者の方々の事故とケガを想定しなければならない。
- ・時代に合った対応(個人情報・情報モラル・先生方の働き方改革等)を守らない大人への対処の仕方。
- ・平日昼間に対応可能な「できる人が、できる時間に参加する」複数人体制やマニュアルを整える。また、資金面においても補助金等に依存せず、自立した活動を目指す。
- ・校区を越えたコーディネーターの連携を進め、協力体制(人材・ノウハウ・イベント)を共有したい。
- ・一人で行うのではなく複数人で学びながら活動し、次世代リーダーの育成を目指す。

3. 成果・効果

- ・活動を始めた当初は、参加者も少なく、どんなふうに進めていけばいいのか手探りの状態だったが、少しずつ参加者が増え、今では老若男女を問わず、沢山の方がイベント等に参加してくださるようになった。
- ・活動を通して顔を合わせるうちに、自然とあいさつや声かけが生まれる関係になり、地域の中に新しい繋がりが広がってきている。

4. これまでの活動全般を通して感じていることや、今後の展望など

- ・地域と学校が協力し、子どもたちを共に育てることが、これからのまちづくりに必要不可欠だと考えている。
- ・時代は大きく変わっているが、臨機応変に対応し、地域・学校・家庭がウィンウィンの関係を築くことで、大人も子どもも学べる活動を継続していきたいと思う。

学 校

1. 成果・効果と今後の見通し

- ・子どもたちの安全安心及び教育活動が円滑に進むよう取り組んでくださっている。特に、5年生及び全校生の参観授業で取り組んだ防災マップ作りでは、地域防災の視点で、子どもの居住地域の防災マップ作成に関して、専門的なご指導を賜り、大変貴重な経験となった。次年度以降も継続的に地域学校協働活動の推進を図りたいと感じている。

